

PET サマーセミナー 2015 in 東京ベイ 印象記

中島 留美
Nakashima Rumi

2015年のPETサマーセミナーは、9月4日(金)～6日(日)の3日間、東京女子医科大学の坂井修二先生を大会長とし、東京ディズニーリゾートオフィシャルホテルの東京ベイ舞浜ホテルクラブリゾートで開催されました。テーマは“次世代への～絆～”で、PETや核医学の技術・知識を次世代の医療従事者に伝承し、育成の場にしたいとの思いが込められた内容でした。学生や前期研修医にもPETや分子イメージングの素晴らしさを知ってもらえる機会になるよう特別参加料金が設定され、PETサマーセミナーの歴史上最多記録となる約800名が集まりました。

初日は、例年、セミナー開会に先立ち行われているユーザーズミーティング(GE社のユーザー互助会)の時間帯に、PET装置メーカー4社によるメーカーズランチセッションがあり、選べて楽しい駅弁(ご当地グルメ、赤飯幕の内、男飯)が準備されていることがあらかじめホームページでアナウンスされていたこともあって、セミナー開会前にも関わらず、300名を超える参加者で会場は賑わっていました。

プログラムの構成は概ね従来のPETサマーセミナーの形式でしたが、全体で1,000席を超える会場が用意されていたこともあり、演題数は140題でした。しかし、受付、第1～4会場、クローク、事務局控室、企業展示ブース、ドリンクブース、書籍コーナーが同一フロアに設置してあり、移動には便利でした。

坂井大会長の開会宣言に続いて、15時から

恒例の“ワークインプログレス”がありました。仙台厚生病院の山口慶一郎先生が司会を務められ、PET装置のメーカーの方々に最新技術の紹介をお願いする場ですが、今回は東京女子医大の近藤千里先生と2人での進行でした。現在市場に出回っている乳房専用PET装置3製品が加わり、参加メーカー7社というのも過去最高数でしたが、PET装置の技術的な専門性の高い内容で、初めて参加した人にとっては、司会者とメーカー担当者、質問される先生の間で飛び交う難解な専門用語、いつもながらの鋭いやりとりに、ついて行けない場面もあったようです。個人的には乳房専用PET装置に興味を持っておりましたが、その時間帯は別室でPET核医学分科会執行委員会に出席しており、残念ながらその最新情報を聴くことができませんでした。

18時からのイブニングセミナーで、参加者は夕食を取りながら勉強し、引き続き19時10分～21時40分までの時間帯に“夜の学校”が開催されました。“臨床”“技術”“薬学”“看護”の会場で、お酒を飲みながら、膝を突き合わせて、職種間の垣根もなく、自由なディスカッション、本音トークができるという「夜の学校」は、ほかの学会には類を見ないPETサマーセミナー初日のメインイベントです。著者はこれまでいつも“臨床”の症例検討会に出席していましたが、今回は“看護”に出席し、1部で“接遇”、2部でPET診療に従事する“看護師の役割”についての発表・討論を聴きまし

た。PET 検査における受診者の問診や薬剤の注射、待機中の管理・誘導などの業務は看護師が行っている施設が多く、PET 検査の質の向上や安全確保面で看護師の果たす役割が極めて大きいにも関わらず、従来の看護教育課程で放射線看護があまり重視されていないため、PET 検査に従事する看護師には専門的な知識や技術が必要とされることについての理解が低いのが現状です。千田道雄先生が「PET 看護師の人材育成と地位向上をめざして」と題した講演の中で、将来、核医学認定看護師の資格を設ける予定であることを伝えられました。色々と苦勞している現場の看護師さんの悲痛な訴えがあり、皆が心を痛めたそのとき、会場にいらしたメーカーの方から PET 核医学看護師地位向上への支援を申し出る発言があり、その応援の想いに胸が熱くなりました。こうして、熱気漂う“夜の学校”が終わると、もっと話したい人は2階の“情報交換会”の会場に移動しましたが、ホテル側の都合で、24時にはシンデレラのように帰らなければなりませんでした。

セミナー2日目は、例年だと早朝7時から朝食を取りながら“会員総会（施設代表者委員会）”が行われますが、今回は東京近郊のホテルや自宅から通う人が多いことを考慮され、9時からのセッションでスタートしました。この日は12のセッションで発表・討論が行われ、中でも「PET 検査を依頼する立場の他科の医師の視点から見た FDG-PET」「治験や先進医療に参加するときの心得」「アミロイドタウイメージング」「サイクロ廃棄」「PET を治療計画にどう生かすか」「PET 撮像認証で求められること、そしてその根拠」での参加者数が多かったと聞きました。今回あらたに初級者向けの「ビギナーコース (BC)」が7つ設けられ、著者は BC4「腹部、リンパ腫、検診」で、名古屋大学の加藤克彦先生と座長と一緒に務めさせていただきました。検診では、保険診療としての FDG-PET/CT 検査と同様に考えて対応してい

ると思わぬ落とし穴にはまる可能性があること、検診で見逃しやすい病変や留意点、クレームを減らす方法について、古賀病院 21 の吉田毅先生から実例を挙げた発表があり、検診を担当している者にとっては領ける点や参考になった点が多かったのではないかと思います。

17時40分からの会員総会（施設代表者委員会）が終わると、何ということでしょう！ 福島から来てくださったという見目麗しきフラガールの華やかなダンスショーで懇親会が始まりました。料理も飲み物も豊富に用意しており、皆満腹になったようです。懇親会の終盤に、来年の PET サマーセミナーの開催地“熊本”をアピールするため“阿蘇の四季”を映像で紹介し、実行委員長の吉田毅先生とともに、視察を兼ねて参加した共同開催施設の古賀病院 21 と当施設の準備委員、総勢 13 名がステージに上がって会場の皆様に挨拶をいたしました。

天気に恵まれ迎えた最終日も9時からスタートし、4つのセッションとビギナーコースが3つ、そして、一般演題 25 題（臨床、技術、看護）の発表が予定通り行われ、「PET サマーセミナー 2015 in 東京ベイ」は盛会裏に閉会となりました。

来年の「PET サマーセミナー 2016 in 熊本」のテーマは“Passion, Mission and Pay It Forward!” 東京ベイでの想いを引き継ぎつつ、久留米市の古賀病院 21 と共同で、8月26日(金)～28日(日)の3日間、JR 熊本駅近くの ANA クラウンプラザホテル熊本ニュースカイで開催いたします (<http://2016pet-summer-seminar.jp>)。

東京ベイで配布されたワインカラーのコンダレスバッグにノートパソコンと様々な資料を入れて持ち歩き「来年もまた多くの方々が楽しみにして熊本に来ていただけますように！」と願いながら、準備をしている毎日です。

(日本赤十字社熊本健康管理センター
PET-CT 検診部)